



TITLE:

日本数学会の電子化の取組(紀要の電子化と周辺の話題)

AUTHOR(S):

戸瀬, 信之

CITATION:

戸瀬, 信之. 日本数学会の電子化の取組(紀要の電子化と周辺の話題). 数理解析研究所講究録 2006, 1463: 1-3

ISSUE DATE:

2006-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/47995>

RIGHT:

日本数学会の電子化の取組

戸瀬 信之

NOBUYUKI TOSE

日本数学会

MATHEMATICAL SOCIETY OF JAPAN

この講演記録は、2005 年 7 月末の時点における日本数学会の刊行物電子化の取り組みについてまとめたものです。その後の事態の進展は非常に早く、この講演記録を残すのがいいのか迷いました。しかし、日本数学会の出版委員会専門部会委員と刊行物の電子化を始めるにあたって、どのようなことを考えて準備をしていたのかを残すことは有益と考えました。その後の進展については、簡潔に追記を入れてあります。

この RIMS 研究集会は、日本の数学刊行物の電子化を早く進めないと世界から取り残されてしまうという多くの関係者の危機感から企画が始まりました。特に、数理解析研究所所長の高橋陽一郎先生からは多くの援助・助力をいただきました。数学会理事として深く感謝いたします。

1 刊行物

日本数学会の刊行物には以下のものがある。

- 英文
 - Journal of the Mathematical Society of Japan (JMSJ)
 - Japanese Journal of Mathematics (JJM)
 - Advanced Studies in Pure Mathematics (ASPM)
 - MSJ Memoirs
 - Publications of the Mathematical Society of Japan
- 和文
 - 「数学」
 - 「数学通信」
 - 「数学メモアール」
 - その他 各分科会のシンポジウムの記録など

2 組織

日本数学会において電子化を担当する組織は出版委員会、出版委員会の中の専門委員、理事会の中のワーキンググループ、各編集委員会となる。

2.1 「数学通信」

「会報」ほとんど全てが HTML または PDF として公開されている。著作権は数学会と解釈。次号の 10 巻 2 号の原稿依頼から、そのことをうたう。

「数学的記事」日本数学会の様々な講演会の記録。最近のものは著者の承諾の下で PDF 化して公開。ただし、メールでの承諾のみ。

追記 (2005 年 12 月)

日本数学会の刊行物の著作権に関する基本的な考え方を定めた「著作権に対する考え方」が評議員会で決定 (05 年 9 月) された。「数学通信」はこの考え方をもとに著作権の細かな規定を策定中である。

2.2 JJM

来年度からレビュー誌として新シリーズが出版される。同時に電子化するが過去のものについては未定。著作権の問題は今後のもの過去のもの共に今後議論する必要がある。

(追記 2005 年 12 月)

JMSJ と同様の手続きで過去のものに関する著作権の手続きを進めている。ただし、一部に学術会議が発行していた号があって、その部分は交渉を始めている。

2.3 JMSJ

現在プラットフォームの選択の交渉中であり、著作権、2 次利用権については全く手つかずの状態である。

(追記 2005 年 12 月)

過去の号を JST のアーカイブ事業で電子化する予定である。電子化したものは、Euclid および J-Stage で公開する。カレントの号は、SPARC/JAPN を通して Euclid で電子化を行なう。J-Stage でも公開する予定である。詳細は、「数学通信」10 巻 3 号の会報にあり。著作権に関しては、11 月 4 日付けの会告により移譲の手続きを始めた。

2.4 ASPM

20 巻までの PDF 化を行なうことが編集委員会で決まっている。ただし、公開については未定。

3 問題提起

3.1 技術的な面

- どのような形式の PDF を作るか
 - 本文の引用文献からリンクを張るか
 - フランスの MathDOC では、Full text も入れているが

- 引用文献はどこに飛ぶようにするか
 - － MathSciNet だけでいいのか
- 複数のプラットフォームにおいたときは、MathSciNet からどこに飛ばすが

3.2 権利関係

- 著者の権利をどうするか
 - － 著作権をもらうのか
 - － 2次利用権をもらうのか。今後出てくる全てのメディアに対して？
- 過去のもの著作権をどうするか
- 過去のもの権利をもらうときの手続き
- 日本数学会では、刊行物に従って、著作権の規定が違ってくる可能性がある

4 数学会が取り組むべきこと

- 技術的なこと、法律的なことに関する情報提供
- 日本語の数学文献のメタデータの規格を作る
- WDML への対応、準備
- 実験プロジェクト
 - － 日本の数学文献のポータルサイト
 - － J-Stage の文献のメタデータ置き場 (WDML 用)
 - － MathDoc や Goettingen との連携？ (メタデータの交換)
 - － 全文検索エンジン？
- 数理研のコンソーシアム計画のサポート
- 他学会との連携
- J-Stage との交渉
 - － MathSciNet をリンクしてもらう
 - － OAI のメタデータの利用を可能にしてもらう
 - － (追記) 以上の2点については、交渉の結果、一定の前進が見られた。

(追記 2005 年 12 月)

数学会出版委員会の専門部会が実験サーバー `jdm1.math.or.jp` を構築し始めた。これで WDML への対応の準備をはかることにしている。